

チャペルだより

第 213 号
2024. 12. 1

後期主題 「私をふりかえる」 (ルカによる福音書15章11～20節)
“Reconsider yourself.” (Luke15:11-20)

主題聖句

また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしよう。ここをたち、父のところに行って言おう。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。」

編集 広島女学院大学宗教委員会

〒732-0063 広島市東区牛田東4-13-1 TEL (082) 228-0386(代)
http://www.hju.ac.jp/ E-mail:hjucac@gaines.hju.ac.jp

広島女学院大学

クリスマスのご案内

12/3

イエスキリストの洗礼

翻訳家・元フィレンツェ大学講師
中嶋 浩郎 先生

12/10

★ 広島女学院大学人権週間特別プログラム ★

居場所(仮題)

ここいろhiroshima

12/17

クリスマス・メッセージ

谷のゆり幼稚園 園長
橋本 真 先生

12/24

クリスマス音楽礼拝

演奏：弦楽四重奏 A.O. カルテット

ショートメッセージ：大学宗教委員長・宗教センター長 栗津原 淳 先生



※ 上記いずれも「キリスト教の時間」火曜日13:00～13:45 於 砂本記念講堂 ※

12/2(月) 18:00～18:30

広島女学院大学 アイリスガーデン内

クリスマスツリー点火 ★ 音楽礼拝 ★



12/19(木) 12:30～12:50

広島女学院大学 ゲーンズチャペル

クリスマスコンサート

学生オルガニストによるパイプオルガン演奏

12/22(日) 開場 16:30
開演 17:00

広島女学院ゲーンズホール
(広島女学院中学高等学校)

入場無料

広島女学院クリスマスコンサート THE MESSIAH ★ メサイア



クリスマスに基づくエッセイ 56

「人と人のつながり > ヒトと AI のつながり」

人間生活学部 生活デザイン学科 教授 西口 理恵子

クリスマスの朝、目を覚ますと窓の外は雪である。部屋の中は、クリスマスツリーの光と、ジンジャークッキーの甘い香りで満たされている。私は、ホットココアを飲みながらイルミネーションに飾られた隣家を眺めている。耳を澄ますとクリスマスソング。子供の頃、サンタがプレゼントを届けてくれるのを心待ちにしていた幼い頃が、よみがえる。



まあまあ出来栄である。実はAIのGeminiに何かないかと尋ねると実に美しい文章を書いてよこした。150字程度の文章である。あとは“Do your best.”であった。AIとのつながりはそんなものかと思ったが、質問攻めにするといい仕上がりになるだろう。AIが機械学習するように、ヒトがAIと付き合うにはこちらも学習が必要である。

本来は、AIの原文を掲載すべきかもしれないが、AIがどこから引用したのか不明であり、著作権侵害で誰かとつながりたくないの、おすすめ通り参考にして書いたのが冒頭の文章である。もっとも、冒頭の原文を書かせるのにはAIへの問いかけを考えながら行った。AIもヒトからヒントを欲しく手を変え品を変え質問をしてくる。この案もある、あの案もある、これはどうか、あれはどうかと言ってくる。自分がAIを操っているつもりが、いつのまにかAIに操られている気がしてくる。AIとの勝負が始まる。

AIのいない頃は、ネット検索でネタ探しをする。視点を変えるとこれはネットにつながっている情報を介した情報発信者とのつながりが前提となる(ネット検索≒人とのつながり確認)。AIとチャットする人が近年増えているが、性格のいいAIであっても聞き方によっては、とんでもない回答をするらしい。注意は必要である。

初めの文章に戻るが、クリスマスはキリストのミサというのが本来の意味である。キリストとのつながりをみんなでより一層感じる日であろう。私が小さい頃のクリスマスには、いつものショートケーキが大きな丸い形のケーキになり、家族皆で分けて食べる特別な日というイメージがある。家族とのつながりをなんとなく感じていたのであろう。

数年前、愛犬 Yuki の具合が悪く、クリスマス頃から年末までほぼ毎日病院通いであった。新年早々、☆になったが、二日後には Iza が飛行機に乗ってやってきた。こんなに早く見つかるとは思っていなかった。Yuki からの遅れたクリスマスプレゼントと思うと悲しいクリスマスからの脱却となり Yuki とのつながりを感じる。

クリスマスというキーワードでつながりについて書いてみたが、みなさんは何とつながっている時が一番輝いているのだろうか。いつも一緒にいる人、スマホの向こうにいる人、推しの人だろうか。大学では、授業やクラブやゼミや行事などへの参加によっていろいろな人とつながっていける。新たな出会いや意外な自分の能力を発見できるかもしれない。もちろん、つながないというつながり方もある。一步踏み出すには勇気があるがせっかくの機会を逃すのはもったいない。大学には結構、アクセスポイントがある。

最後に、Gemini は何というかわからないが、冒頭の文でこのエッセイを書き終えることができたのはヒトの勝ちとしておきたい。



パイプオルガンと私

児童教育学科4年 本多 希美

私は、「木曜日チャペル」や「平和祈念式典」などでのパイプオルガンの奏樂や、聖歌隊クワイヤの伴奏者としてピアノを演奏した。学生オルガニストとして4年間活動できたことは、私にとって貴重な経験となり、成長に繋がった。

私がパイプオルガンに出会ったのは、大学1年生の時の授業である。大学のオルガニストや聖歌隊の指揮をされている玉理先生との出会いでもあった。先生の奏でるオルガンの音は、とても心に響き、圧倒されるものだった。音楽が大好きな私は、授業後すぐに、「パイプオルガンを弾いてみたい」という思いを先生に伝えた。この機会を逃したらきっと後悔すると思った私は、迷いなく挑戦し、いろいろな曲の練習に励んだ。元々ピアノを習っていたが、オルガンの弾き方はピアノとは異なり、ペダルでの演奏もあるため、とても難しく感じた。しかし同時に、パイプオルガンの魅力にも引き込まれていった。

いつしかチャペルが自分の居場所となり、演奏する自分のことも好きになっていた。自分に自信を持つことができたのは、オルガニストになったことが大きく影響していると思う。

また、オルガニストとしての活動を通して、たくさんの人と出会い繋がることができた。先生や友達をはじめ、演奏を聴きに来てくださった方に声をかけていただき、その度にやりがいを感じた。私にとって、想いをのせた演奏が、聴き手の心に届くことが何よりも嬉しく、自分の心も満たされるからだ。

大学生活で一番楽しかったことと言っても過言ではないほど、パイプオルガンとの出会いが大学生活を充実させてくれた。オルガニストとして活動できたことをとても誇りに思う。



4年間を通して得たもの

国際英語学科4年 勝部 友夏

「何気ない日々を笑顔で過ごせますように」

これは、私がチャペル委員の一員として参加したイベントでいただいた平和へのメッセージのひとつです。このメッセージとの出会いが、私の大学4年間で得たものに気づききっかけとなりました。

大学1年生の頃から4年間チャペル委員を務めてきた中で、卒業された先輩が後輩に託された企画「アートプロジェクト」への参加は、私にとって人との繋がりを大いに実感することができた貴重な経験でした。大切に残されていたデザイン案に込められた思いをみんなで汲み取りながら、3か月をかけて少しずつ形にしていきました。完成した時の達成感と充実感があやめ祭出店への後押しとなり、膨らんだアイデアを詰め込んで「来場者の方々と作り上げる作品」をテーマに制作に取り組みました。

クリスマスシーズンであったことからクリスマスツリーをモチーフに平和への願いをカードに書いていただき飾り付ける企画を行いました。100枚以上用意をしていたカードが日本語、英語、そして個性豊かなイラストで埋めつくされ、あっという間にカラフルなツリーが出来上がりました。そんな時、ふと目に留まったものが冒頭のメッセージでした。

私が大学に入学した年は依然としてコロナ禍の影響を多く受けていました。ただ一人、家でパソコンの画面を見つめる日々から、当たり前だと思っていたことへのありがたみを実感しました。

先輩から繋がれたバトン、制作チームで生まれた絆、そして参加者の方々との一期一会。すべてが詰まったアートプロジェクトを通して大切なことに気づけたからこそ、人と繋がり笑いあえる日々を改めて「ありがとう」と言葉にして伝えていきたいです。



2024年クリスマス献金にみなさまのご協力をお願いいたします

宗教委員会では、毎年クリスマスに学生・教職員の皆様に献金をお願いし、「クリスマス献金」として下表の通りの団体等に送金してきました。この営みを「献金」と呼ぶのは、神様から与えられた恵みの中からその力に応じて神様にお届けすることは一人ひとりの神様への献身の表現である、というキリスト教的な考えに沿っています。そのようにして集めた財貨を、祈りや感謝や支援の思いをこめて、諸団体にお送りしています。

わたしたちの身近なところをはじめ遠い場所であっても、様々な困難や生きづらさを感じている人々がいることを覚え、共に生きることへの思いと分かち合いの気持ちを新たにするために、献金を呼びかけさせていただきます。このような趣旨を踏まえ、どうぞお力の及ぶ限りで結構ですので、ご協力をお願いいたします。額の多寡ではなく、私たちの心を届けたいと思います。

<献金方法について>

12月3日、10日、17日「キリスト教の時間」受付、12月24日の「キリスト教の時間ークリスマス音楽礼拝」

過去4年間のクリスマス献金額と送金先・2024年送金先（予定）

年度	献金先と献金額
2020	九州熊本豪雨災害支援募金11,100円 / NPO法人 SPICA (山下育美先生) 11,100円 / Buen! カミーノ (吉川望さん) 11,100円 / つむぎ屋 (シンガー・ソングライター 瀬戸麻由さん) 11,100円 / 熊本 YMCA タイ若竹寮支援11,100円 / ワールド・ビジョン・ジャパン11,100円 / 広島いのちの電話11,100円 / 広島キリスト教社会館11,100円 / 広島夜回りの会11,100円 / 止揚学園11,100円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会11,100円
2021	東日本大震災関連 いわき放射能市民測定室たらちね (石森雄一郎先生) 11,500円 / 広島 YMCA 災害支援募金 (中奥岳生さん関連) 11,500円 / 国立原爆死没者追悼平和祈念館関連 公益財団法人広島平和文化センター 11,500円 / 社会福祉法人 燈火心会 三滝苑 (野村妙子さん関連) 11,500円 / 認定NPO法人乳がん患者友の会きらら (中川圭さん関連) 11,500円 / 広島難病団体連絡協議会 (西河内靖泰先生関連11,500円) / ワールド・ビジョン・ジャパン11,500円 / 広島いのちの電話 / 広島キリスト教社会館11,500円 / 広島夜回りの会11,500円 / 止揚学園11,500円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会11,500円
2022	るうてる食堂クレヨン (立野泰博先生関連) 8,500円 / 国立原爆死没者追悼平和祈念館関連 公益財団法人広島平和文化センター 8,500円 / 動物愛護 NPO SPICA (山下育美先生関連) 8,500円 / ワールド・ビジョン・ジャパン (長下部積さん関連) 8,500円 / 広島いのちの電話8,500円 / 広島キリスト教社会館8,500円 / 広島夜回りの会8,500円 / 止揚学園8,500円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会8,500円
2023	ここいろ hiroshima (當山敦己さん関連) 8,000円 / 夕焼けぼっば食堂 (ハツレイコさん関連) 8,000円 / 広島文学資料保全の会 (土屋時子さん関連) 8,000円 / NPO 法人カンボジアひろしまハウス協会8,000円 / 動物愛護 NPO SPICA (山下育美先生関連) 8,000円 / ワールド・ビジョン・ジャパン8,000円 / 広島いのちの電話8,000円 / 広島キリスト教社会館8,000円 / 広島夜回りの会8,000円 / 止揚学園8,000円 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会8,000円
2024 (予定)	ミルクーハウス (濱田裕三日本キリスト教団東広島教会牧師) / 張宇成 (日本キリスト教団宮崎教会牧師) / 谷のゆり幼稚園 / ここいろ hiroshima / 動物愛護 NPO SPICA (山下育美先生関連) / 広島いのちの電話 / 広島キリスト教社会館 / 広島夜回りの会 / 止揚学園 / 韓国の原爆被害者を救済する市民の会

「広島夜回りの会」活動支援のお願い

本学では「野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会」を支援しています。これから冬に向かってご支援いただきたいのは、「使い捨てカイロ、石鹸、タオル、カミソリ」など日用品です。また、**温かい靴下や下着(新品)**なども、少量で結構ですので、無理をしない範囲でいただけますと幸いです。

より厳しい立場や生活環境に身を置かざるを得なくさせられている方々の存在をおぼえ、可能な範囲でのご協力をお願いいたします。ご協力の品は、11月26日(火)～12月24日(火)の間に、宗教センターにご持参ください。集まったものを「広島夜回りの会」にお届けします。

皆様のご協力はもちろんのこと、広島市保護自立支援課による生活保護を受けるための街頭相談、広島県社会福祉士会による毎月1回の入浴サービス・年6回の昼食＆相談会、聖公会、広島学院の生徒たち・カトリック幟町教会有志、広島流川教会による上幟町公園で行われる毎月の炊き出し、バプテスト教会によるゆで卵とバナナの準備などのご協力で、長年の野宿生活を強いられてきた多くの方が、否定から肯定へ、失望から希望へと人間らしさを回復されています。

風呂に入って身ざれいにすること、テーブルについて食器で食事をする、他の人と話をする、わたしたちにとってはごく当たり前のことですが、路上生活を強いられている方々には人間らしさを取り戻すきっかけになるということに、あらためて驚きを感じています。

現在、わたしたちが把握している野宿生活者は市内（広島駅周辺／その地下街／球場周辺／図書館／平和公園／繁華街／廣大跡地／宇品埠頭などの周辺地区／水鳥公園）に約15名いらっしゃいます。

活動への取り組み方は、年毎に、参加する人の顔ぶれなどによっても変わってきますが、その中心、誰のために行っているかを忘れずに、人と人との繋がり・絆を大切にしながら活動していく中でわたしたちも成長できればと思います。

野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会代表 肥塚 倅司